

#437 「聖書を理解 最大の障壁を崩す」

<これがわかれば 福音がわかる>

ローマ人への手紙 3 章 23~25 節

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏

------*---*---*---*---*---*---*---*---*---*---*---*---*---*---*

皆さま、こんにちは。本日はほんとに大勢来ていただきまして、ありがとうございます。
私は約 3 週間、関東から信州に伝道旅行に出かけておりました。
各地の集会やバイブルキャンプでお話して来たんですが、ある集会に、2 時間ほど掛けて、男子高校生がお父さんと 2 人で参加してくれたんです。すごく熱心に聞いてくれる高校生でした。

メッセージが終わった後、自然な感じで座談会みたいになったんですね。何の話からか、ギリシア神話の“スフィンクスの謎かけ”、ご存知ですか？ スフィンクスがオイディプス王に謎かけするんです。「朝 4 本、昼 2 本、夜になると 3 本になるもの、なーんだ？」答えられないと殺される。しかし、オイディプス王はすぐに答えて「人間だ！」
人生の朝に当たる赤ちゃんは四つん這いだから 4 本足。大人になったら 2 本足歩行。晩年おじいちゃん・おばあちゃんになったら杖を突くから 3 本。だから人間だということで、ここからすごい話が展開していくんです。

この高校生、この話知らなかった。なので、自分なりの答えを出そうと必死に考えて、「分かった！ウチの田舎の電車や！」彼の近所の駅、朝登校する時 4 本、昼 2 本、下校時 3 本。1 日 9 本。数年後に廃止という。賢いのか、何と言ったらいいのか。
そんな田舎に住んでいるのですが、今はインターネットがあります。
それでメッセージを聞いてくれて、どうしても教えてほしいことがあるということで、一番近い集会、といっても 2 時間近く掛かって わざわざ来てくれたんですね。

何を聞きたいのかというと“携拳”。皆さんは携拳、聞いたことがありますか。
この集会に来ている方はよく聞いていると思います。“やがてキリストが、ある時クリスチャンたちを空中まで引き上げてくださり、クリスチャンたちが忽然と姿を消す”。

彼が住んでいる田舎にもキリスト教会があるので、携拳について聞いたら、「携拳って何？」って言われた。クリスチャンからですよ。なんで日本は、こんなに福音が広がらへんのか。
まともな福音が語られていない、という可能性はあるかもしれないなと思いましたね。

とにかく彼は「携拳のことが聞きたい、聖書預言のことが聞きたい」と集会に来てくれたんです。皆さんはいかがですか。聖書のどの箇所を知りたいと思って集会に来られるのか、統計を取ったわけではないけど、よく聞く話はこれです。

「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」 イエス・キリストの言葉です。

キリストについて知りたい。この御言葉に励まされて教会の門をくぐった。そういう方は少なくな

と思いますが、「え、この御言葉で来るの？」という御言葉で来る方もおられるんですね。聖書には、すごく勇気が与えられたり、慰められる言葉がありますが、耳に痛い言葉もたくさん書いてあるんです。特に多くのページを割いて「私たちは罪人なんだ」ということを語るんですね。

なぜ罪人だということを厳しく糾弾するのか。自分が罪人で、そのままの状態なら人生の結末はいついどうなるのか ということを知らないと、罪からの救いの必要性を感じないからです。

「別に、救われなくてもいいわ」と聞き流すことができる。

「でも、笑い事じゃないんだよ」と聖書は語ってるんですね。

罪の話になると「嫌だなあ。聞きたくないなあ」という方が多いのですが、今回訪問したある集會に、「すべての人は罪人である」という言葉に惹かれて来た方がおられました。

この方は警察のOBが設立した警備会社に勤務していて、柔道2段・剣道2段。そしてクラヴ・マガ/Krav Maga（イスラエル軍の白兵戦の格闘技）のインストラクターの免状を持ってる。

もうムキムキで、この人と絶対仲良くしようと思ったんですけど。

彼は聖書の「すべての人は罪人である」を聞いた時、「ほんとに素晴らしい言葉だな」と思ったと。彼が言うには、世界のセキュリティシステムは、すべての人間は罪人であることを前提にして組まれている。性善説に立ってセキュリティなんか出来ない。だから安倍さんのことが問題なんですよ。すべての人間は罪人であるという前提に立って、「だからこういうシステムが必要です。このようにセキュリティを準備することが必要です」と手を打って行く。

彼の話があまりにもオモロイので、色んな方が私そっちのけで。

俺ここにおんねんけど…ってね。いや 私も質問しましたよ。

例えば、人通りのない山奥ではなく住宅街であっても、深夜2時3時に若い女性が歩くのは危ない。襲われた時「助けて！キヤー！」言っても、そんなんだメですと。

皆さん、いかがですか。夜中2時3時、もう寝入っている時に、全然知らない赤の他人が外でキヤーと言って、わざわざベッドから起きて鍵開けて、「何があったの？」と見に行く人いますか？

「若い女性が困っている。助けてあげるべきだ」と思うでしょうが、寝てたら、「ええわ。知らん人やし。」世間は冷たい。

じゃあ どうするんですか？「火事だー!!」と言いなさいって。「あの家も この家も燃え移ってる！」とか言ったら、「家の玄関先に火 着いてるんちゃうか」と思って、起きてみようかなとなる。

つまり、自分に実害が及ぶようになって初めて動いてくれる。自分に関係ない人がどんなに不幸な目に遭っても、わざわざ もう一度起きてアクション起こすことはほとんどないだろう。

そしたら、ある方が「実は困っていることがあってね。」私、メモ取り出しました。面白い。

「私の父は最近、忘れ物・落とし物がものすごく多いんです。多分 認知が始まっています。でも本人は絶対認めないんです。しかも落とし物としてすぐに気づけばいいけど、1週間くらい気がつかないんです。」落とし物には財布がある。その中にはクレジットカードが入っている。すぐに対処しないと悪用されてしまうかもしれない。

彼は「お父さんの財布の中に、クレジットカードの暗証番号を書いた紙を入れといてください。」

えっ、そんなんしたら…。「ただし偽の番号。3つ書いてください。ATMで暗証番号を3回間違ったら自動的に凍結されます。そしてすぐに、使えないことを向こうから教えてくれるので、お父さんが無自覚でも大丈夫ですよ。」

皆さんがあんまり顔くんで、そんなに困ってるんかと、そんなに身に覚えあるんかなと、ちょっと不安になって来るんですが。

「すべての人が善人なら、そもそも暗証番号は要らないです。拾った財布は必ず届ける…という人ばかりではない。暗証番号が分かればお金を引き落とそうとする人たちがいる、という前提で対応したら安全度が増す」と言うんです。

「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず」と聖書に書いてあります。

それを読んだ時、「聖書というのはお花畑の言葉じゃない。のんきな人たちの暇つぶしの本なんかじゃない。徹底したリアリズムに基いている。人間の現実はこうなんだ！ということ突き詰めて書いてある。ここまで突き詰めた上で、その人間に救済を語る言葉は本物だ。」

大学で聖書研究会に出ていたことも幸いしたのですが、そんな風に言っておられました。

人は罪を犯すという前提で、いかに被害を最小限度に食い止めるか。

その設計思想に基いて、システムが出来上がっている。にもかかわらず、私個人の問題になったら、われわれ日本人は自分が罪人であることを中々認めないし、分からないし、ピンと来ない。

なぜ自分が罪人であることが、そんなにも分かりにくいんだろうか。

今日はこの点について、3つのポイントで考えたいと思います。

ローマ人への手紙 3章

23 **すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、**

すべての人は罪を犯したので、神からの栄光を受けるはずだったのにもかかわらず、受け損なっている状態にある。

1) **すべての人だから自分も入っているのに、なぜそれがピンと来ないのか**

まず 自分を量る対象が間違っている可能性があると思います。

アメリカのある所に、非常に乱暴者の兄弟がいました。兄も悪いが弟も乱暴者で、2人でやりたい放題の限りを尽くし、欲望の赴くままに生き、世の中を引っ掻き回し、地域住民みな迷惑を被っている。ところが弟が死んだ。兄が教会に来て、牧師に「葬式やってくれ。そして、弟はセイジンだったと言ってくれ。」セイジンで、バルタン星人とかの星人じゃないですよ。

聖い人の聖人。罪が無い人。立派な人。道徳的に優れた人。「聖人と言ってくれ。死んだんだから、花持たせてやってくれよ。」牧師は「難しい…ですが、できるだけ努力をしましょう。」

葬儀が始まり、牧師が前に立って、故人の生涯を褒め始めました。「皆さん。彼は嘘つきで、詐欺師で、乱暴者で、盗みもやってた とんでもない奴でした。でも、兄貴と比べたら聖人です。」

もちろん人間だから、嘘つくこともある。人を傷つけることもある。迷惑を掛けたこともある。

でも、ヒトラーが600万人のユダヤ人を殺したことと比べたら、俺はなんぼマシや。

スターリンが2000万人粛清したことを考えたら、俺はなんぼマシや。

毛沢東が1億人殺したことを考えたら、俺はどんなに聖人なんや。

って、なるんじゃないですか？ だれと比べるか、です。

「フリーハンドで、まっすぐな線を書いてみなさい。」

シューと引っ張って、まっすぐかなと思っても、定規を当てたら絶対ズレてるでしょ。

なぜ罪が分からないのか。人間同士で比べているからです。もっと言うなら、自分よりもヒドイ人と比べたら、どんなに酷い人生であっても、なんぼかマシに見えて来ますよ。

比べる対象が間違っている。「神の前に立った時、あなたは大丈夫ですか」と聖書は語るんです。

心の中の動機も、生まれてから今日に至るまでのすべてのことも、全部知り尽くしておられる方の前に、私たちは必ず立つ時が来ます。それについては先週の『ざっくり黙示録』でお話したので、ぜひ聞いてください。神がお調べになっても大丈夫か。

2) すべての人は罪を犯して。すべての人が犯した罪はどんな罪か

同じ3章に、すべての人が もう1箇所出て来ます。

12 すべての者が離れて行き、だれもかれも無用の者となった。

ここでの罪は離れて行くことです。どこから離れて行くのか。自分の造り主から離れて行く。

神の栄光のために造られていながら そのために生きて来なかったとするなら、その目的から離れているわけですね。本来あるべきところから離れる。

罪はギリシア語でハマルティア。直訳は“的外れ”。罪とは的外れ。神という的から外れて生きること。聖書はこれを罪と言います。

そういう説明をその集会でしたんです。そしたら、1人の女性…女の子、高校生、もうちょっと行くかな、分からへん。女の人の年齢分かりません。でも私よりムチャクチャ若い。私の息子より若い。で、「罪とは的外れです！」と言ったら「分かるう！」と言い出すんですよ。

後で すごいキャピキャピしながら、「高原さん、今日の説明 良かったわ！」って、えらい上からやん。

彼女はモスバーガーでバイトしてた。ある時お昼の忙しい時に 中年のサラリーマン風の男性が来て、「昼マック、ビッグマックで。」「当店では、昼マックもビッグマックも扱っておりません。」

「え、売り切れ？ ならビッグマック単品で。コーラ付けて。」「当店はモスバーガーです。」

まだ分からへんねん、この人。「だから何んやねん。」

だから何なのと言われてもねえ。「モスバーガーでマクドナルド注文しないでください。」

「これって的外れですよ。アイツ、罪人ですよ。」そこかい！「そこかよ、おまえ～」言うて。だけど後でね、「ん～、言えてるな」と思って。

モスバーガーでマクドナルドを注文するのは的外れですよ。

絶対売ってない所に行って「売れ売れ」言うても、注文しているほうが間違ってる。

的外れているほうが的外れているのに気づくまでは、正当な要求をしているように思うんですよ。

私たちは人生の中に、全宇宙存在目的である神を勘定に入れずに生きて来たから、「神の前に罪」とか言われても「はあ？」みたいな。

創造主という方は空想上の存在じゃないんです。私たちを造った方。全宇宙の第一原因者ですよ。

第一原因者/創造主のために造られていながら、その方を無視して離れて生きる。

これを聖書は 的を外れ/罪と言うんですね。

私たちは良いものを求めています。良いものは良い方のところに行かないと、受け取ることは出来ません。最も良い方とは誰でしょう。神です。

神は良い方です。良い方からは良いものしか出ません。

私たちが人生ですっと追い求め続けているもの、例えば無条件の愛・崇高な人生の目的・揺るがない希望・確たる平安、色んなものを求めて彷徨っているのではないかと思いますが、それらはみな、良い方のもとにあります。

キリストは「わたしが真理である」と言われました。キリストの中に実体があります。

私たちが求めてやまないものはすべて神の中にのみあるのに、神から離れた状態で探し求めている。これが的を外れの人生。不毛の努力だと聖書は語っているんですね。

3) なぜ罪を認められないのか。よく分からないのか。

罪を認めたが最後、問い詰められ・追い詰められ・やり込められる。

それを心配しているのではないかなと思うんです。

交通事故起こして最初に「ごめん」言うたら、「おまえ、ごめん言うたよな」と。

外交でも「ごめん」言ったら、「ごめん」と言ったから実体が無くてもあったことにする、という形になるじゃないですか。だから「私は罪人ではありません。」

罪人だと認めたら、「認めたな！」と こそぞとばかりにやり込められてしまうことを予期して、中々素直に認められないのではないかと思いました。

アメリカに『ニューヨーク』という週刊誌があって、嘘に関する、子供を使った心理実験の記事が大分前に載ってました。

まず、『狼少年』の話を迫力満点で聞かせます。『狼少年』は皆さんもご存知でしょう。

暇をもてあまして羊飼いの少年が「狼が来たー！」 小さな自分のひと言で、大の大人たちが半分パニックになって、右往左往の大騒ぎで対策を取ろうと走って行く。それを木の上から眺めてたらムチャクチャ面白い。ところが2度3度と嘘をついていて、本当に狼が来た時、「狼が来たー！」と言っているのに、みんな信じてくれなくて、結局狼に食べられてしまったというお話。

これをプロのナレーターに迫力満点で読ませて、その後1週間 統計を取るんです。

子供の自己申告ですけどね。嘘が減ったか増えたか。結論を言うと、嘘をつく回数は増えもしなかったし減りもしなかった。要するに 何の影響もなかった。

次に『ワシントンの桜の木』、これも有名な話ですよ。少年ワシントンは新品の斧の切れ味を試したくて、お父さんが大事にしていた桜の木の幹をコーンコーンやってたらバタツと倒れた。

お父さんが帰って来たら、大事な桜の木が倒れている。「これやったの、誰だ?!」

ワシントンが「お父さん、僕です。」 そしたら「よく正直に言ったね。正直な息子を1人持つことは、千本の桜を持つよりも誇らしい」と言って彼を抱きしめた。

これはね、出来過ぎた話だと思います。でもね、アメリカの道徳の本や日本の道徳の本に、これが事

実であるかのように載っているんです。この際、事実かフィクションかはどっちでもいい。大事なのは、この話を聞かせた後の子供たちが嘘をつく回数。なんと 43%も減ったんですよ。

心理学者たちの結論はこうです。恐怖で嘘を禁じると、人は嘘をつかなくなるのではなく、より巧妙に嘘をつくようになる。しかし「正直さは評価され、喜ばれるのだ」という話をすると、嘘から遠ざかるようになる。なぜなら、赦しがある世界では、嘘は必要がなくなるからです。

罰があるから、罰を免れるために・軽くしてもらうために・逃れるために、次から次に嘘を重ねる。でも、罰は無い。罰は過ぎ去った。罰は来ない。そうだった時初めて、「実は僕がやりました」と正直に言うことができるようになるんですね。

23 すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず

もし罪が入っていなければ、人は神の栄光を受けるために造られていた。神にとって愛の対象だった。大切な存在だった。だけど、罪が入ったために神の栄光を受けられなくなった。…で終わっていたら「ああ、残念だ。」苦い読後感で終わるんですが、続きがある。

24 神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。

神の恵みにより。どういうことでしょうか。罪は神の栄光を受けられないようにしたけど、同時に、神の恵みの作動が始まるきっかけにもなった。

神は罪を憎む方。しかし、罪人を愛しておられる。神が罪そのものを愛することはあり得ません。なぜ神は罪を憎むのでしょうか。罪が、神が愛する人間の人生をメチャクチャに破壊するからです。

多くの人は癌を憎むでしょ。なぜですか。癌に罹っている患者を滅ぼすからです。

罪は人を滅ぼす。神が愛してやまない人間をメチャクチャに破壊する。

生きている人生の中でも破壊し、死後 永遠の裁きの中で破壊する。

神は罪は憎むけど、罪人に対しては居ても立っても居られない方です。

神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。

神はご自分のひとり子イエス・キリストを遣わしてくださったのだ、と語るんですね。

もう 15-16 年くらい前に、あるシンガッコウの校長先生から電話がありました。神学校。大学進学率が良い高校じゃなくて、牧師を養成する大学みたいな、神の学問と書いて神学校。話したことはないけど、この方の CD は聞いたことがあって、サクソフーン奏者でもあるんです。私のことをずいぶん高く評価してくださったんですが、結論を言うと、そのお申し出を辞退しました。ですが、私を励ますためかよく分からないのですが、証しというか、自分の身の上で起こったことを話してくださったんですね。

この方はアメリカのすごく有名なフラァー神学校に、4 年か 5 年か留学したんです。

1 人ではなく奥様と長女と長男の家族全員。長女がまだ小学校低学年で、アメリカで 4-5 年過ごして英語ペラペラなんですけど、いずれ日本に戻ることを考えて、日本語忘れたらアカンから「家の中では日本語で喋んねんで。家の中では日本語だけや。」

英語で姉弟けんかが始まったら「ちょっと！日本語でやり！」親は分からへんから。

いよいよ帰国が決まって、「こんだけ日本語喋れる娘なら、どこに行っても問題ないわ。」ところが盲点があった。聞いたり話したりは全然不自由なかったけど、読み書きがまったくできなかったんです。日本語を読むことができない。日本語ってカタカナ・ひらがな・漢字…それで小学5年生からいきなり始まるんですよ。これはマズイことになった！

それで、当時の公立小学校に「ウチの子は帰国子女で、小学校5年間の読み書きが全然できてないので、そこをなんとか特別カリキュラムを組んで…」そんなんに対応してくれる学校、どこもなかった。

途方に暮れてどうしようと思っていたら、家のすぐ近くの某国立大学教育学部の研究機関の一部として、帰国子女教育・定員5人のクラスがスタートする。「これや！」そこをお受験。

50人以上来た。50人以上来て、取るの5人だけ。みな不安だから親も付いて来てるんですよ。

1時間目終わった時、娘さん、うつむいて出て来て「はああ…」。(ああ、あかんかったんや。)

2時間目、泣いている。(相当あかんかったんやな。)

3時間目、笑顔で出て来た。「終わったあ！」もう吹っ切れたんです。握ったから苦しんだんですね。もう手放した。「もうここ入れへん。こんなとこイヤ！テスト終わったから、たこ焼き食べに行く！自由だー！」(ああ、終わった…。)

午後1時、親と子供150数名が大教室に集められて合格発表。

1人目に娘さんの名前が呼ばれた。その瞬間、「同姓同名おったんや」ってキョロキョロ。

そしたら、紛れもなく自分の娘だと分かって、「おかしいな。ウチの娘、天才か？俺に似たな。」

発表後に先生が、「本校は新しいメソッドとして、帰国子女教育の最先端教育をやろうとしています。他校では絶対についていけない子供さんだけを選び抜いて合格発表しました。」

つまり下から順番に呼んだんですね。1番やん。トップや。

それ知らなかったから、みんな受験の前に一生懸命 学習塾に行って勉強したんですよ。

勉強して、そうだったんですよ。出来が悪ければ悪いほど、憐みを受けた。

「他の学校に行っても何とかついて行けるだけの力を持っているお子さんは、そちらの方に行ってください。本校はどうにもならない人たちだけの、少人数5人編成のクラスです。」

これが**恵み**です。

この娘さん、「私は競争率10倍以上の難関を突破してこの学校に入学できた」って自慢しますか？東大医学部現役合格！は自慢になるでしょ。だけこの場合、なぜ合格したのか。ダメだからです。そのダメさ加減がヒドイほど、「絶対になんとかしてあげるからね！」という憐みが降り注がれたんですね。これが**恵み**です。

すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができません。

そうなった時、神は放っておけなくなりました。

この人のためにも あの人のためにも、**神の栄光**というプログラムがあったのに、しかもそれは素晴らしいものだったのに、みすみす無駄に終わって受け損なってしまふ。

そうお考えになった時、不憫で可哀想で、居ても立っても居られない。放っておけない。

とうとう、ご自分のひとり子イエスをこの世界に遣わしてくださった。

